

美術の表現・技法・材料に関する多角的研究 (①企04-11-1/5)

目 的

本研究は彫刻や絵画を中心とする美術作品を構成する材料やそこに用いられた技法、ひいては表現、その制作過程、作品の成り立ち、生成されてから今日にどう至ったか、それがどのように受容されてきたか等を、関連書分野と連携しながら多角的に分析し、現在目の前にある「作品」ないし文化財に対するより深い理解を形成することを目的としている。

成 果

1. 作品・関係資料の調査・研究

今年度は以下の作品・資料を調査した。また、雪舟についての多角的な検討を進めて一定の成果を得たほか、ギメ美術館蔵大政威徳天縁起絵巻6巻の詞書全文の解説・翻刻を進めた。

ア) 宝福寺蔵木造性信上人坐像 (於群馬県立歴史博物館)

イ) 松岡美術館蔵伝周文筆竹林山水図ほか

ウ) 石見美術館蔵狩野松栄筆益田元祥像ほか

エ) 画法書板本『御絵鑑彩色仕様』: 萩博物館蔵本、静嘉堂文庫蔵本、国立国会図書館本 (『和漢御絵鑑』)

2. 彩色関係データベース (語彙・史料編) の公開

美術工芸品の彩色を考えるうえで史料上にあらわれた関係語彙とその使用例を総覧することを目的に、彩色関係資料データベース (語彙・史料編) のデータ集積とホームページでの公開を行った。集積に際しては前中期計画に引き続き、公刊史料 (活字本) をもとに、その中から彩色関係の語彙の抽出につとめ、分類し、奈良時代史料にあらわれた彩色語彙データベースをホームページにおいて公開するとともに、逐次、更新に努めた。

3. 寄贈資料の整理

前中期計画に引き続き、表現技法材料研究ととくに関わりの深い久野健旧蔵資料および秋山光和旧蔵資料の整理を進めた。

4. 研究会の開催等

研究会2件 (2011年10月12日、綿田稔「室町漢画の基盤一周文と雪舟の場合」/2012年2月28日、綿田稔「『御絵鑑』について」) および研究協議会1件 (2012年2月24日「ギメ本大政威徳天縁起絵巻詞書検討会」) を開催した。

論文

・綿田稔「山水長巻考—雪舟の再評価にむけて—」『美術研究』405 pp. 25-46 12.1

・津田徹英「中世真宗の祖師先徳彫像の制作をめぐる」『美術研究』406 pp. 27-47 12.3

発表

・綿田稔「室町漢画の基盤一周文と雪舟の場合」第45回企画情報部オープンレクチャー 東京文化財研究所 11.11.12

・綿田稔「『御絵鑑』について」企画情報部研究会 東京文化財研究所 12.2.28

研究組織

○綿田稔、田中淳、山梨絵美子、二神葉子、津田徹英、塩谷純、小林達朗、皿井舞、江村知子 (以上、企画情報部)、中野照男 (客員研究員)